★特集：煉瓦のマテリアルとしての魅力を再考する★

インタビュー

施主の想い、物語を積み上げることで、煉瓦を使う意味が見いだせる

株式会社 髙山煉瓦建築デザイン 代表取締役

髙山　登志彦 さんに聞く

華やかさ、重厚感、文化や歴史。施主が建築デザインに込める想いというのは千差万別だ。特に唯一無二ともいえる素材感をもつ煉瓦は意匠建材としてだけでなく、建物を覆うことで躯体を守り、建物を支える構造材としての側面もある。

今回は煉瓦積みを通して建物やインテリア、ランドスケープに独自のデザインで命を吹き込む髙山煉瓦建築デザイン代表取締役の髙山登志彦さんに最新施工事例の紹介いただきながら、煉瓦の魅力と可能性について話を伺った。（編集部）

▲「チャレンジ精神と創意工夫で、質実剛健、無骨な煉瓦を軽やかに、華麗に積むことができるか。それが職人の腕の見せどころ」と語る髙山さん

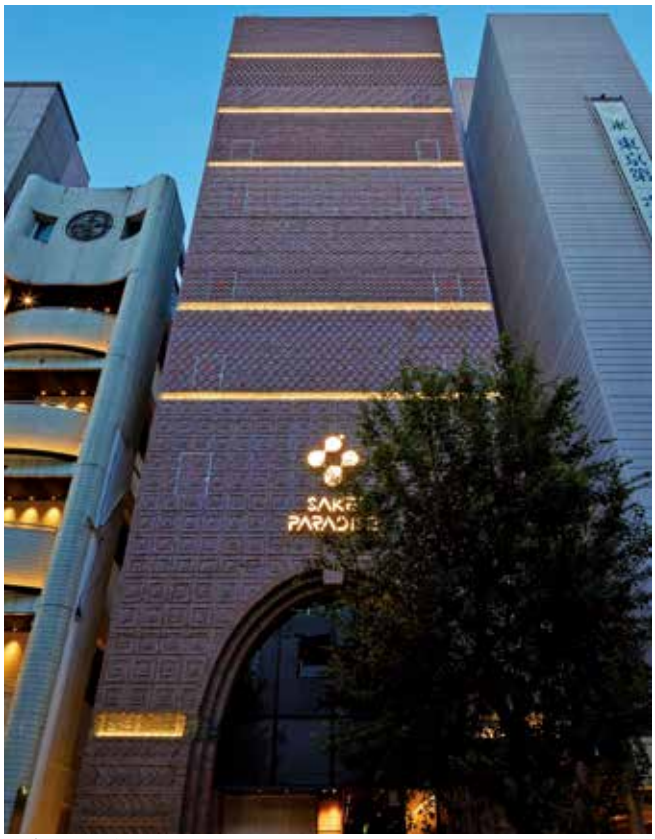
斬新なデザインと素材で目を引く

――早速ですが、施工物件の紹介をお願いします

最近の施工事例として、名古屋市錦町3丁目にあるビルのファサードの事例があります。この物件のオーナーは商業施設やビルなど不動産関係の仕事をされており、当然、自社ビルのデザインが顧客へのPRにも繋がります。印象的でデザイン性に優れた外装であれば、リーシングで有利になりますし、顧客も同じ賃料ならばデザインの良い物件を選ぶので空室率を抑えられる。何より、貸す側とすれば坪単価あたりのテナント料が高いほうが良いでしょうから、話題性の高い外装の建築物のほうが有利と考えられたのではないでしょうか。それもあってオーナーから外装のファサードデザインの全てを一貫して任せていただきました。

――建物のコンセプトはなんですか

ファサードのコンセプトは、錦織の反物です。建物の外装は煉瓦の本積みですが、今回は10種類の積み方を織物の柄ように紡ぎ重ねてグリッド分けして表現しました。また、錦糸をイメージして光り輝くラインを入れています。錦3丁目は、昼よりもむしろ夜が華やかな街というイメー



▲名古屋市錦町、夜の街に映える光のスリットが印象的